

Ⅰ. 序 章



◆みどりの基本計画とは

- 1 見直しの背景
- 2 計画の意義及び効果
- 3 計画の位置づけ
- 4 みどりの基本計画の構成

◆「みどり」の役割とその必要性

- 1 緑地の分類
- 2 役割とその必要性

みどりの基本計画とは

1 見直しの背景

山形市緑の基本計画は、平成27年を計画の目標年次として平成11年3月に策定しました。

この間、地球温暖化の進行や生物多様性の危機などの環境問題、少子高齢化の進展、市民生活や価値観の多様化など、我々を取り巻く社会情勢も変化してきました。

このような状況の中で、もう一度「みどり^{*}」の役割・機能を見つめ直し、これまでの基本方針を受け継ぎながら、様々な課題の解消に向けて取り組むべき施策を明らかにし、目指すべき山形市のみどりの将来像を創り上げていくため、計画の見直しを行うものです。

※『緑の基本計画』から『みどりの基本計画』へ

「緑」という言葉からイメージされる、樹木や草花などの植物、河川や湖沼などの水辺地、公園・緑地などばかりではなく、レクリエーション、コミュニティ、心身の健康など幅広い価値観を含んだ総合的な計画であるため、「緑の基本計画」から「みどりの基本計画」へ変更し、計画書では「みどり」と表記します。

みどり



樹木や花



山並みなどの景観



河川



レクリエーション



公園



健康づくり



コミュニティ



花育



減災

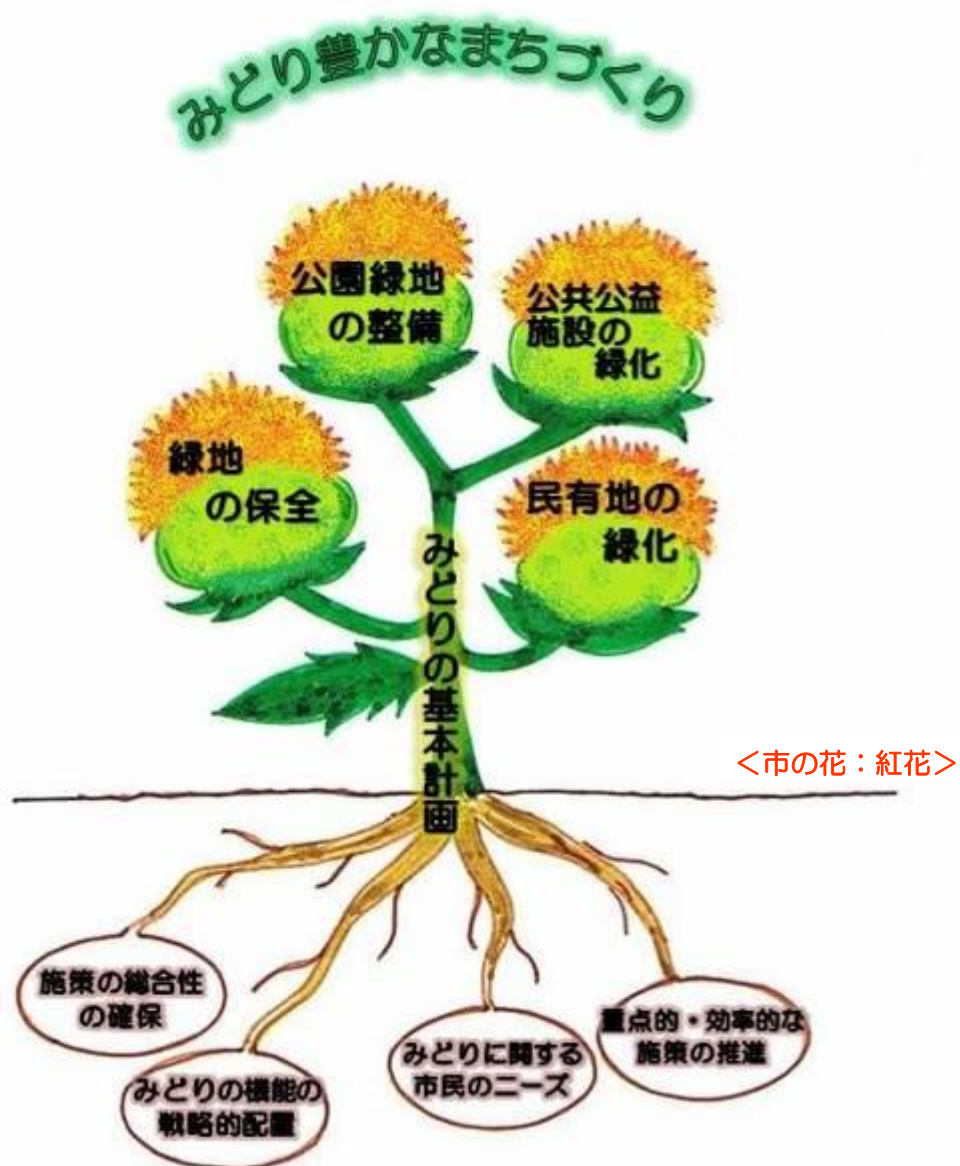


園芸福祉

2 計画の意義及び効果

「みどりの基本計画」は、都市緑地法（平成16年都市緑地保全法から改正）に基づき、【施策の総合性の確保】【みどりの機能の戦略的配置】【みどりに関する市民ニーズ】【重点的・効率的な施策の推進】などの意義及び効果を踏まえたうえで策定されます。

独自性、創意工夫を発揮して、緑地の保全、公園緑地の整備、公共公益施設及び民有地の緑化推進まで、山形市の「みどり」全般について、幅広く将来のあるべき姿とそれを実現するための施策を明らかにし、市民と行政とが思いを共有し、一体となってみどり豊かなまちづくりを目指します。



3 計画の位置づけ

「山形市みどりの基本計画」は、まちづくり全体の指針や施策の基本的方向を定めた「山形市基本構想」、「山形市発展計画」及び「山形市都市計画マスタープラン」の考え方を踏まえるとともに、環境や景観に関する方針を定めた「山形市環境基本計画」「山形市都市景観ガイドプラン」などと整合を図っていきます。

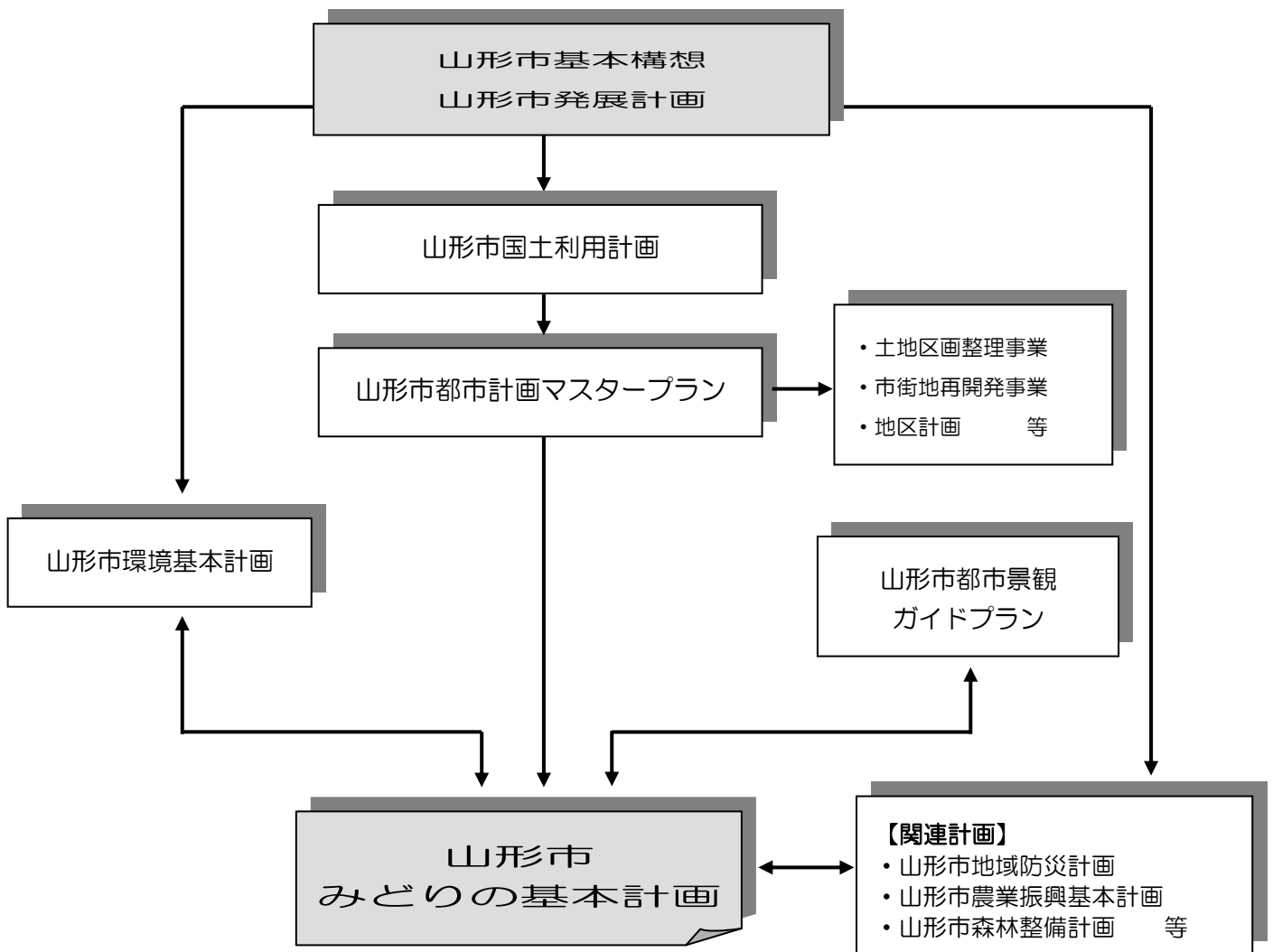


図1-1 みどりの基本計画の位置づけ

4 みどりの基本計画の構成

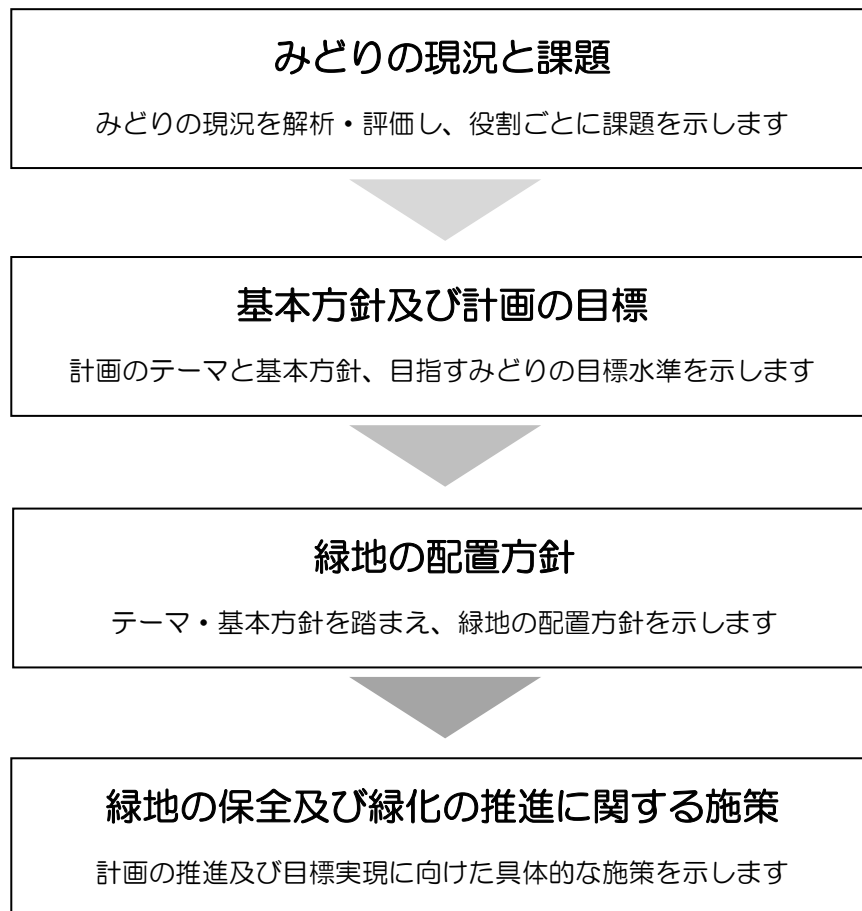


図1-2 計画の構成

「みどり」の役割とその必要性

1 緑地の分類

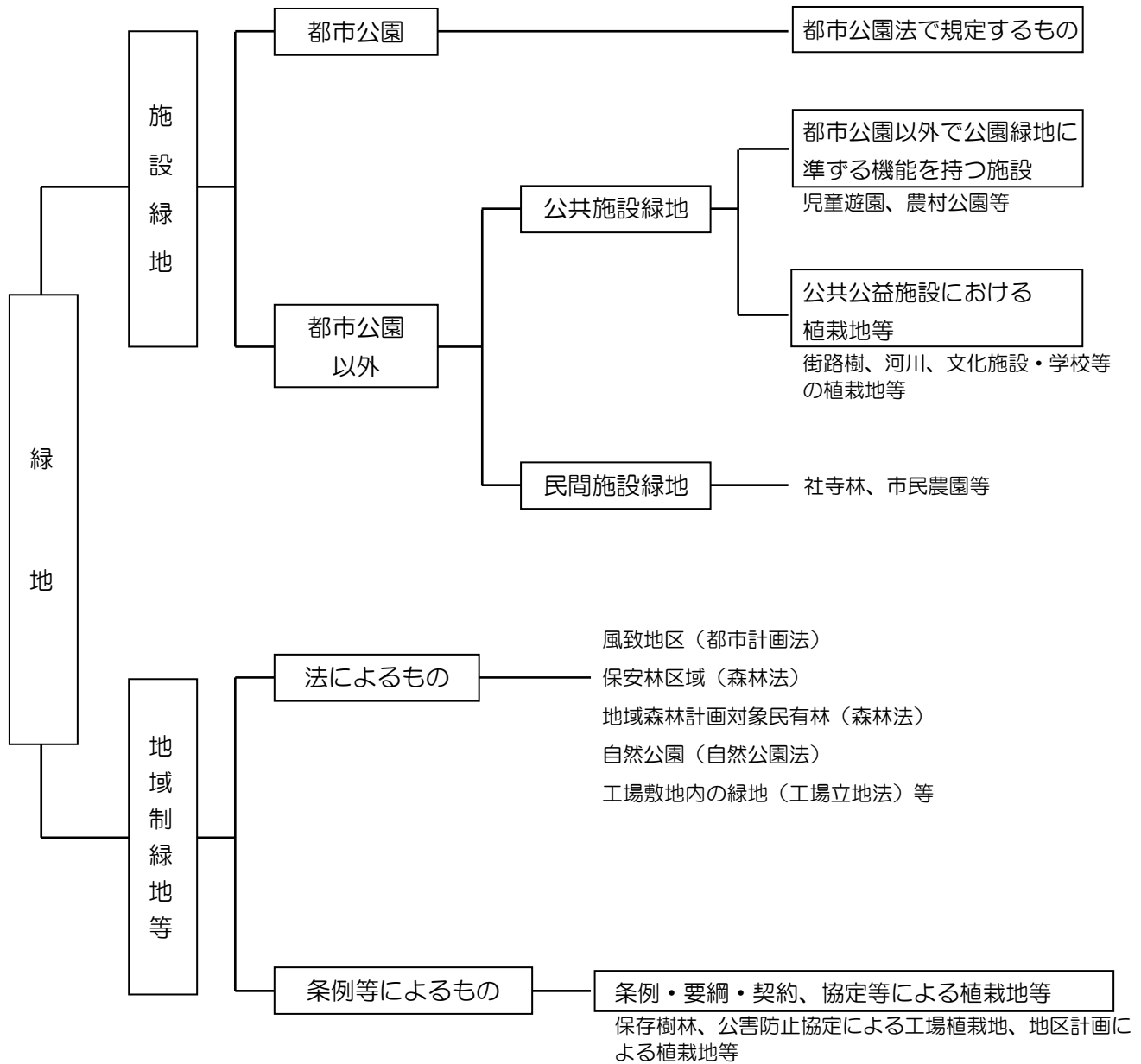


図1-3 緑地の分類

都市緑地法第3条第1項

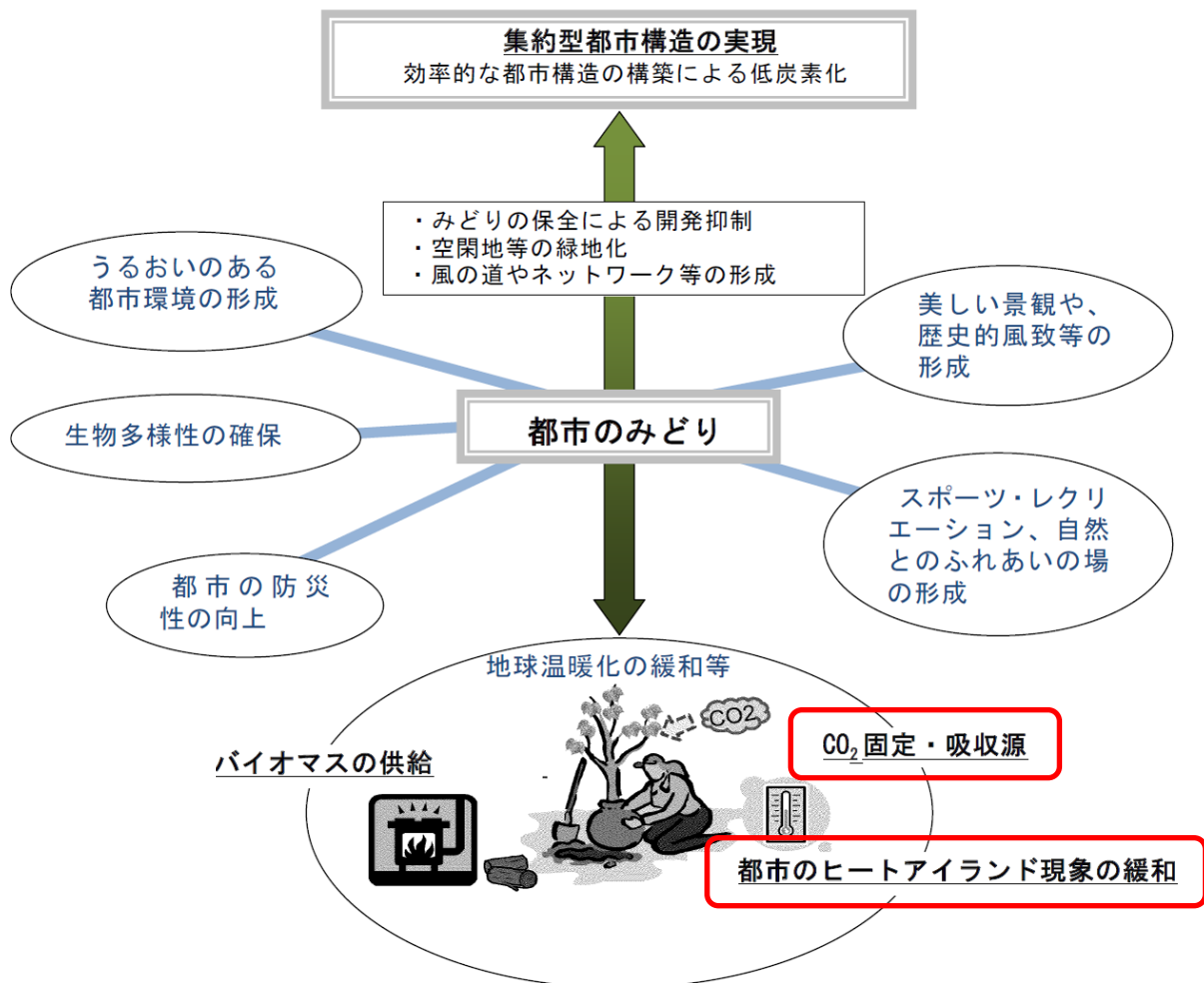
この法律において「緑地」とは、樹林地、草地、水辺地、岩石地若しくはその状況がこれらに類する土地が、単独で若しくは一体となって、又はこれらに隣接している土地が、これらと一体となって、良好な自然的環境を形成しているもの。

2 役割とその必要性

みどりは、環境の保全や改善、レクリエーションの場の提供など多様な機能を持ち、都市において重要な役割を果たしています。そして、近年、社会全体が成長・拡大から成熟社会へと移行していく中で、精神的な効果をもたらすみどりへの期待も高まってきています。しかし、都市化の進展に伴い、この大切なみどりの減少が懸念されています。

今後、住み慣れた生活環境の維持向上を図りながら、地球温暖化をはじめとする環境問題に対応し、さらには、都市機能の適正な配置などによる低炭素社会の構築が必要とされる中で、山形市の豊かなみどりを量・質ともに守り育てながら、その機能をより効率的・効果的に発揮させるため、新たな「みどり」についても創出を図る必要があります。

国土交通省が策定した「低炭素まちづくり実践ハンドブック」において、低炭素まちづくりを進めるうえでの都市のみどりの役割が示され、その機能が最大限発揮されるよう施策を実施することが必要とされています。



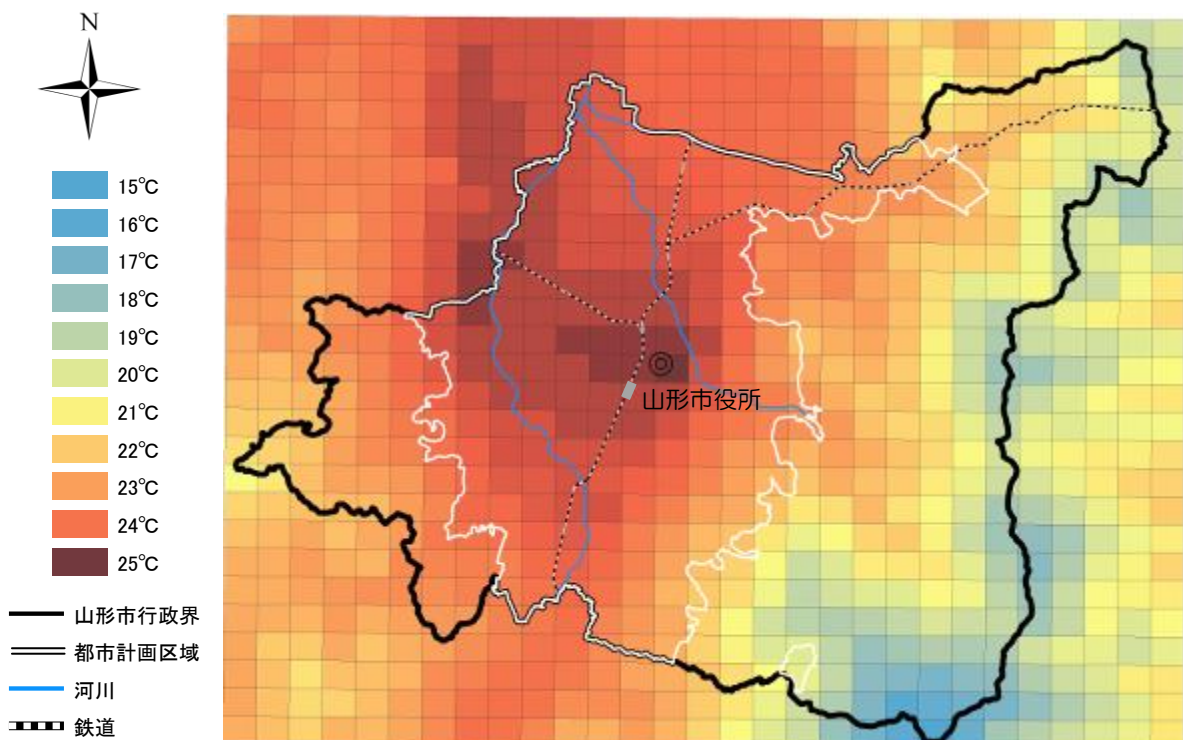
出典) 国土交通省「低炭素まちづくり実践ハンドブック」

図1-4 都市のみどりの役割

①都市の環境を守り良くする役割（環境の保全及び改善）

みどりは、地球上の生物が生育する環境を生み出す、無くてはならないものです。また、樹木や草花による被覆面が太陽光などからの熱の蓄積を抑えることによるヒートアイランド現象の緩和、樹木による二酸化炭素の吸収など、生物多様性の保全や地球温暖化をはじめとする様々な環境問題対策において、みどりが果たす役割はとても重要です。

山形市の気温についてメッシュ平年値を確認すると、図1-5のように、市東部の山林部地域に比べ、中心市街地の気温が高くなっていることがわかります。



出典) 気象庁

図1-5 メッシュ平年値 2010 (8月平均気温)

②市民のレクリエーション需要に応える役割（レクリエーション）

公園・緑地は、運動の場、歴史や自然とふれあう学習活動の場など、市民に様々なレクリエーションの場を提供し、市民生活に活力をもたらします。



西公園



嶋遺跡公園



山形城跡 霞城公園



馬見ヶ崎プールジャバ



馬見ヶ崎河川公園



馬見ヶ崎河川公園での日本一の芋煮会

③都市の特色ある景観を創り出す役割（景観形成）

市街地を取り囲む森林や田園などのみどりは、山形市を印象づける代表的な景観を形づくり、その美しい風景は市民の生活にゆとりや安らぎ、潤いをもたらしてくれます。また、市街地におけるみどりもまちに潤いを与え、個性的で魅力ある景観を創り出します。



みどり豊かな田園風景



もみじ公園



文翔館



蔵王連峰の山並み



専称寺

④災害による被害を軽減する役割（減災）

公園・緑地などのオープンスペースは、災害時の一時避難場所（指定緊急避難場所）や救援活動等の拠点になります。東日本大震災においても避難場所や救援活動等の拠点となった公園・緑地が多く見られました。

また、避難場所や救援活動等の拠点としての利用以外にも、火災における延焼防止の効果も期待されます。阪神・淡路大震災の調査では、火災の延焼防止の要因として、公園や道路が39%、空地が23%で、合わせると半数以上がオープンスペースによるものという結果が出ています。また、庭木や街路樹などの樹木による家屋やブロック塀などの倒壊を軽減した事例が57件あったと報告されています。



出典)『新時代を迎える地震対策』
(建設省監修、ぎょうせい)

図1-6 延焼防止効果の要因



火災の延焼を防止した公園（神戸市長田区）

出典) 防災公園計画・設計ガイドライン

監修：建設省都市局公園緑地課

建設省土木研究所環境部

編集：財団法人都市緑化技術開発機構

表1-1 樹木の支持機能が被害軽減に役立った事案件数

樹木分類	対象物							総合計
	家屋	ブロック塀	塀	ネットフェンス	電柱	電線	不明	
街路樹	15	0	0	0	0	1	0	16
公園	0	0	0	1	0	0	0	1
庭木	17	14	4	1	2	0	1	39
不明	0	0	1	0	0	0	0	1
件数合計	32	14	5	2	2	1	1	57



建物倒壊被害を軽減する樹木（神戸市東灘区）

出典) 日本造園学会阪神大震災特別調査委員会

「公園緑地等に関する阪神淡路大震災緊急調査報告書

⑤まちへの愛着や生活への活力をもたらす役割（コミュニティの形成）

公園・緑地は、人々が集い、出会い、交流する場として、日常的に利用されています。同時に、みどりの管理や植栽などの緑化活動の場にもなっています。また、歴史・文化資源、道路の花壇や植栽帯、公共公益施設など、まちや地域の様々な場所が緑化活動の場となっています。

緑化活動は、市民が身近に参加できる地域活動であり、まちや地域への愛着をもたらすとともに、活動を通じた楽しみの共有は、コミュニティを形成し、生活の質を高め活力をもたらします。



ボランティア団体による山形駅前での緑化活動（きらりロードの会）

⑥人の心を育て心身に健康をもたらす役割（豊かな心の育成・心とからだの健康）

近年、社会が成長・拡大から成熟へと移行していく中で、精神的な充足感による心の健康、からだの健康が求められています。

みどりには、癒しの効果によるストレス軽減や子供たちの情操面での向上などのほか、健康維持など、身体的な効果も期待されています。

日本造園学会全国大会において、『園芸における身体的効用』についての研究発表がなされ、20歳代男性を対象に「花壇づくり」活動の運動強度を測定したところ、その数値はエアロビクスに匹敵するという結果が出ました。厚生労働省によると、園芸は「弱い運動」に定義されていますが、花壇づくりには、鍬で耕したり肥料を撒いたりいろいろな作業が含まれているためと考えられ、毎日のように植物の世話をを行う「園芸」という作業が、体を動かす動機の一つになりうるとされています。



介護老人保健施設での花苗の植替え（サニーヒル山寺）



児童遊戯施設での花苗の植付け（べにっこひろば）